人間生活工学「安全・安心・健康」ワークショップ

- 日常生活における安心・安全・健康のセンシング技術と製品開発 -

日時 : 2012 年 12 月 7 日 (金曜日)、13:30~17:00 (13:00より受付開始)

場所 : 立命館大学びわこ草津キャンパス、エポック立命 21 3 階会議室(K309) 主催 : 立命館大学総合科学技術研究機構 スポーツ健康科学研究センター

一般社団法人 人間生活工学研究センター(HQL)

開会の趣旨

「日常生活の場で、いかに安全・安心・健康さらには快適さを確保するか」は、生活の質の向上を求める生活者にとって最大の関心ごとであり、また高齢社会における社会的な要請課題でもあります。今回は、私たちの健康・快適性を計測、監視する新しい技術動向と、製品開発の場で健康・快適性をどのように考え設計しているのかについて、皆さんと情報交換することを目的とします。

プログラム

13:30~13:40 はじめに

飯田 健夫(HQL 会長,立命館大学名誉教授)

13:40~14:40 基調講演

牧川 方昭 氏(立命館大学理工学部ロボティクス学科教授,立命館大学研究部長) 『日常生活におけるヒトの心身状態の計測』

我が国は急速に社会の高齢化を迎えており、健康寿命の延伸技術の必要性が益々大きくなってきている。我々はこれまで日常生活における様々な生体信号の計測方法の開発研究を実施してきた。ここでは、心活動計測と身体活動計測の2つの日常計測技術を中心に、日常生活において何を目的に、どのような生体信号が計測できるのか、また、生体センサとしてはどのようなものが研究されているのか、近未来にどのような形で我々の生活に生体センサを入れるべきなのかなど、幅広い観点から日常生活計測について話題提供する。

14:40~14:50 休憩

14:50~15:30 講演(1)

岡田 志麻 氏(立命館大学理工学部ロボティクス学科助教)

『日常生活における睡眠計測とその評価方法 - 睡眠不満を発見し改善するためには - 』 人間は、睡眠に1日の3分の1を費やしており、生活の質を左右する重要なファクターである。しかし一概に睡眠といっても、終夜8時間に渡る睡眠においては、生理機能が時々刻々と変化しており、睡眠を評価するためには、睡眠時の生理諸機能の知識をもとに、様々なアプローチで生理量を計測する必要がある。一般的には睡眠ポリグラフによる睡眠検査がゴールデ ンスタンダードとされているため、本講ではまず、計測手法としての睡眠ポリグラの紹介を行い、 その他、睡眠計測が可能な製品の原理,手法について紹介する。また、睡眠不満を解決する ための能動的な手法について紹介する。

15:35~16:15 講演(2)

大東 利幸 氏(大東寝具工業株式会社 代表取締役社長)

『快眠と〈つろぎの創造』

健康実現のための眠りについてのプラットホーム事業「眠りの蔵」の確立を目指している。事業活動の概要を紹介する。

16:20~16:50 質疑とディスカッション

16:50~17:00 終りに

一般社団法人 人間生活工学研究センター

ご案内

どなたでもご参加いただけますが、事前にお申し込み下さい。会場の都合により先着80名まで受け付けます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

参加費:1000円 当日受付にてお支払い下さい。

(HQL会員,<u>立命館大学スポーツ健康科学研究センター会員ならびに</u> BeAvctive研究会員は無料です)

申込方法 : 所属、部署名、氏名、電話番号、メールアドレスの 5 点をご記入の上、【人間

生活工学WS参加希望」との件名で、E-mail もしくはFAXで下記へお申し込みください。HQL会員,立命館大学スポーツ健康科学研究センター会員、

BeActive研究会員はその旨を明記して下さい。

申 込 先: 立命館大学リサーチオフィス(BKC) 担当:橋本

t-hashi@st.ritsumei.ac.jp (FAX:077-561-2811)

一般社団法人 人間生活工学研究センター 公開セミナー担当

kouza@hql.jp (FAX::03-5405-2143)

【会場交通案内】

立命館大学びわこくさつキャンパスへは、JR 南草津駅から、近江鉄道バス「立命館大学行」、「立命館大学経由飛島グリーンヒル行」に乗車で約 10 分です。JR 南草津駅へは JR 京都駅から新快速 17 分です。(JR 大阪駅からは新快速 47 分)

ホームページはこちらです。 http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_bkc_j.html

以上